

## 日本痛風・尿酸核酸学会 総会議事録

開催日時：2024年2月29日（木）13：05～13：20

会 場：とりぎん文化会館

久留理事長が議長となり、午後13：05に開催を宣言した。

審議に先立ち議長より本日の出席状況は  
会員数 550 名 出席者 59 名 委任状提出者 227 名となっており定款  
第19条の規定により総会が成立することが報告された。

冒頭に議長より名誉会員の垂井 清一郎先生が2024年1月6日にご  
逝去（享年96歳）、同じく永年会員の塩 宏先生が2024年1月24日  
にご逝去（享年77歳）されたとの報告があり出席者全員で黙祷を捧げ  
た。

審議に先立ち総会長の荻野和秀先生からご挨拶があった。

### 【第1号議案 2023年度決算・監査報告】細山田先生

細山田先生より配布された決算書に基づき2023年度決算内容の説明があ  
った。貸借対照表の資産の部では資産合計が当年度1,456,111円減の  
63,027,342円。負債の部では負債合計が前年度より3,770,438円増の  
7,287,200円。正味財産合計は5,226,549円減の55,740,142円になった  
との報告があった。正味財産増減計算書ではガイドライン印税が当年度  
4,345,486円減の364,168円、ガイドライン転載許諾料は当年度3,245,220  
円減の2,299,000円の収益となっている。今回対面にもどった第56回総  
会収入は当年度3,277,093円増の11,947,587円の収益だったが、経常収  
益は当年度4,539,023円減の20,647,002円であった。経常費用は前年比  
5,085,770円増の25,873,551円となった。また財産目録では正味財産が  
55,740,142円となり貸借対照表と一致している。さらに税理士の先生か  
らの確認報告書も得ているとの説明があった。板倉監事、笹田監事、嶺尾  
監事より業務執行状況ならびに財産状況において適法であり各種計算書  
類は収支状況を正しく示しているものと認めますとの報告を受けている

とのことであった。

**【第2号議案 2024年度予算案】細山田先生**

経常収益で若手研究者支援事業の原資となる受取寄付金は今年度も1,100,000円として計上している。特別賛助会費および正会員費は前年度同様に4,600,000円と計上している。経常費用は家賃が減額、またガイドラインの作成が始まるのでガイドライン費の増額、その他は前年度予算とほぼ同程度となっている。租税公課は2023年度の事業収入に対して計算された法人税840,000円を計上している。第57回学会総会収入および費用は収入が10,030,000円、費用が10,200,000円と試算している。以上より2024年度経常収益合計は19,390,000円、経常費用合計は21,890,000円となり計上増減額として、2,500,000円減ということで見込んでいるとの説明があった。議長が議案1.2の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

**【第3号議案 第59回総会（2026年開催） 会長選出】久留理事長**

理事会にて第59回（2026年開催）学会総会の会長として福井大学血液・腫瘍内科教授山内高弘先生が推挙されたことが報告された。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。山内先生より総会長受諾のご挨拶があった。

**【第4号議案 役員改選】久留理事長**

(i) 理事の改選

新規選任3名 高田龍平評議員、仲川孝彦評議員、松尾洋孝評議員

(ii) 評議員の改選

新規選任6名 有馬久富先生、岡田随象先生、小島淳先生、菅野直希先生、山本康孝先生、横尾隆先生

(iii) 監事の改選

新規選任1名 内田俊也先生

議長が改選案の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同により承認された。

**【第5号議案 活動報告】**

1. ガイドライン改訂委員長の決定報告 久留理事長

高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第4版の改訂がスタートするにあたり、委員長として、山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座

教授今田 恒夫 先生に決まったことが報告された。

## 2. 2023 年度学会賞受賞者決定報告 久留理事長

2023 年度学会賞は、山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座教授である今田恒夫先生に決定したことが報告された。

## 3. 2023 年度若手研究者支援事業 若手研究者賞・若手研究助成決定報告 久留理事長

若手研究者賞は大阪公立大学大学院医学研究科 代謝内分泌病態内科学講師 藏城雅文先生に決定した。また若手研究助成については、東京大学医学部附属病院薬剤部 届出研究員 豊田優先生、佐賀大学医学部循環器内科 特任教授 田中敦史先生、千葉大学大学院看護学研究院健康増進看護学講座 教授 大内基司先生、国際医療福祉大学薬学部薬学科 助教/東京薬科大学病態生理学教室 大橋勇紀先生の 4 名の先生に決定したとの報告があった。また寄付をいただいた富士薬品に感謝状を贈呈した、この事業は引き続き継続していくので引き続き寄付などあればよろしく願いいたしますとのことであった。

## 4. 第 57 回総会優秀演題賞候補演題決定報告 久留理事長

臨床部門 2 演題、基礎部門 2 演題、メディカルスタッフ部門 1 演題が選出され、午前中に発表が終わり、最優秀演題賞・優秀演題賞が夜の懇親会で発表されるという流れになっているとのことであった。

## 5. 2023 年度優秀論文賞受賞者決定報告 久留理事長

優秀論文賞に東北大学の小川亜希子先生の「COVID-19 ワクチン接種後の RNA 修飾代謝物排泄の変動」、山形大学の鈴木奈都子先生の「地域住民における血清尿酸値と食品群別摂取量の関連について：山形県コホート研究」、両国東口クリニックの藤森新先生の「新型コロナウイルスワクチン接種と痛風発作（痛風専門医療機関でのアンケート調査）に決定したとの報告がありこの後表彰式に入るとのことであった。

## 6. 編集委員会報告 久留理事長

2023 年度 J-Stage アクセス数は昨年とほぼ同等である。2023 年度学会誌の掲載論文は順調に編集されている。投稿規定については、著者・査読者から色々な意見をいただいております。また「痛風と尿酸・核酸」優秀論文賞選考内規の変更があり、最優秀論文賞が 10 万円、

優秀論文賞が 5 万円となり編集委員長から賞状が授与されることとなったとの説明があった。

#### 7. 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告 久留理事長

2023 年度教育研修会は web で受講が行われた。認定痛風医試験（CBT 形式）は受講者がいなかったが、認定痛風医は更新 10 名、新規 2 名であった。2024 年の教育研修会も昨年同様 web によるオンデマンド形式で行う予定で学会の HP で参加申し込みを受け付けている。COI 委員会からの報告はなしとのことであった。

#### 8. ガイドライン広報委員会報告 中国語翻訳版の進捗状況 久留理事長

天津科技翻訳出版公司よりガイドライン第 3 版中国語翻訳版「高尿酸血症和痛風治療指南」が出版された。金額は 68 元である。この中国語版が販売促進されると学会にも少しメリットがあるので、中国で知り合いの先生などいらっしゃったらお伝え頂き、販売を応援して頂けると幸いですとのことであった。

#### 9. ダイバーシティ推進委員会報告 久留理事長

新しい 3 名の先生が加わり現在 9 名で活発に活動している。第 56 回学会総会に合わせたアンケート調査を実施した。このアンケートは今回の総会でも実施しているので協力をお願いしたい。アンケートで希望があった託児室を第 56 回総会より設置、第 57 回総会でも託児室の受付を行った。第 58 回学会総会での担当シンポジウムでは「働き方改革」をテーマとして取り入れる予定である。2024 年度より男女共同参画学協会連絡会の正式加盟学協会会員になるということが決まったとのことであった。

#### 10. 若手委員会報告 久留理事長

2021 年 5 月発足しており、現在委員 17 名、オブザーバ会員 6 名、相談役 1 名で 2 か月に 1 回の Web 会議とメール審議で行っている。特に関連学会におけるジョイントシンポジウムの企画しており、昨年は日本循環器学会学術集会で尿酸の重要性をテーマにしたジョイントシンポジウムを会長企画として実施した。日本薬理学会年会・日本臨床薬理学会学術総会でも共催ミニシンポジウムが実施され、4 名の委員の先生が演者として発表した。またレビュー論文が Biomolecules に掲載された。明日は若手委員会主催のシンポジウム『痛風・尿酸核酸領域のアップデート～最近の論文まとめ読み～』が行われるのでぜひ参加してほしい。また明日朝 7 時 30 分

から公開若手委員会を行うので興味がある方は是非、足を運んでいただきたいとのことであった。

#### 11. 学術交流委員会報告 久留理事長

昨年6月に発足した。学会同士の交流を通じ尿酸のプレゼンスを向上させることを目的としている。またガイドライン作成にも他学会との連携が必要なので、委員長の山内先生を中心に委員の先生方に尽力いただいている。現在まで3回の委員会が開かれており他学会との合同シンポジウムの開催も行われたとの説明があった。

#### 12. ありかた委員会報告 久留理事長

- ①高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第4版の改定委員長に山形大学の今田恒夫先生が決定し、これから作成のプロセスに入る。
- ②藏城雅文先生（大阪公立大学）からの依頼により、腎性ではない低尿酸血症患者（キサンチン尿症/モリブデンコファクター欠損症）における国内での病態についてのアンケート調査を学会として協力していく。
- ③倫理審査委員会について、設置の必要性や多くの課題を考慮して、引き続き議論を進める。
- ④尿酸の重要性を示すために、生活習慣病関連9臨床団体への加入を目指し活動をする。名誉会員や会員の先生方にも協力いただきロビー活動を行っていききたい。この団体に加入することで今後の学会のプレゼンスを上げていききたいと思っているとのことであった。

#### 13. 2023年度Web講演会報告 久留理事長

昨年は2回行われた。第1回は臨床系で明石先生、丸橋先生に講演いただいた。第2回は藏城先生の若手研究者賞受賞講演と、西野先生のキサンチンオキシダーゼに関する最新の基礎的な側面での講演をいただいた。多くの参加者があり、今年度もぜひ参加してほしいとのことであった。

#### 14. 庶務幹事報告 久留理事長

HPのアクセス数は減少気味だが、ガイドラインの改訂があれば再び増加してくると思う。会員数も減少傾向だが、先生方の協力をいただき増加に努めていききたいとのことであった。

最後に第58回日本痛風・尿酸核酸学会総会会長 大山博司先生からご挨拶

捗があった。会期は2025年2月20(木)、21(金)で、テーマは『遺伝と環境への総合的アプローチ』である。場所は国技館の裏手にある国際ファッションセンタービル・両国とのことであった。

以上で総会の審議はすべて終了し、議長は13時20分に閉会を宣言した。

上記議事録の内容が正確であることを証する為、定款第21条の規程により議長及び出席理事2名が議事録署名人としてこれに記名押印する。

2024年3月11日

議長(理事長) 久留 一郎

議事録署名人(理事) 市田 公美

同 細山田 真